

人と自然の共生をめざして

—あいち自然環境保全戦略

- 策定 平成21(2009)年3月(生物多様性基本法に基づく地域戦略)
- 目標年度 平成37(2025)年
- 目標 恵み豊かな生物多様性を育む地域づくりをとおして、人と自然の共生を実現する

<県土の将来像>

1 生物多様性の保全

生物多様性、すなわち「多様な自然と豊かな生命のつながり」が育まれていること。

2 生物多様性の持続可能な利用

将来の世代にわたって、生物多様性の恵みを分かちあうこと。

3 多様な主体の協働による統合的な取組

多様な主体の協働によって統合的な取組が行われ、人と自然の共生が文化として浸透していること。

私たちの生命と暮らしは、生物多様性—多様な自然と豊かな生命のつながり—によって支えられています。豊かな自然環境は、食料となる米や野菜、魚介類、住まいの材料となる木材、衣服の原料となる綿や絹といった恵みをもたらし、そして、私たちが災害から守るとともに、やすらぎや癒しなど心を豊かにする場でもあります。愛知県は、このような生物多様性の恵みが適切に保全されながら、様々な産業活動をとおして持続可能なかたちで利用され、その豊かさを実感できる社会の構築をめざします。

<取組の基本的視点>

1. 統合的な考え方による取組…脱温暖化、資源循環などと一体となった統合的な取組の推進
2. エコシステム・アプローチの考え方による取組…生態系の科学的な理解に基づいた、予防的、順応的な対応
3. 多様な主体の参加と協働…県民や事業者、NPO、専門家など多様な主体が協働する体制づくり
4. 長期的視野からの取組…自然が回復するのに必要な長期的な時間を踏まえた継続的な取組
5. 広域的・国際的視野からの取組…水循環や資源循環によるつながりを踏まえた、広域的・国際的取組